

私は、小さいころに、独り言をもごもご言いながら一人で遊んだ記憶がたくさんあります。一人で遊ぶと、お話はどんどん広がります。最初はお姫様だったのに、カエルになって魚に見つからないよう石の影に隠れたり…空想と現実の世界で夢中になって遊びました。

子育てをする中で巡り合った長谷川節子さんの「めっきらもっきらどーんどん」という絵本はこどもも私もすっかり虜になりました。どこにでも行ける「呪文」は空想の専売特許です。「めっきらもっきらどーんどん」という呪文に乗って妖怪の世界に飛び込み思い切り遊んだ「かんだ」は、おかあさんの「ごはんよ～」の声で、最後には現実の世界に戻りました。お遊戯会でも、なりきって遊ぶ楽しさを存分に味わっているお子様たちです。



運動遊びとお遊戯会



先月のおひさまだよりに運動遊びの根本先生が体の成長に合わせた運動遊びを展開している写真を載せました。今回は、先生が持った網にボールをシュート！（下写真）手足の伸びとボールの軌道に、やる気をそそられるお友だちの様子もいいですね。体幹を鍛えるハイハイや、空間認知能力を鍛える鬼ごっこなど、お子様が楽しんで繰り返し遊ぶ遊びを工夫しています。

文部科学省の幼児期うんどう指針を参考に、乳幼児期における発達の特性と経験したい運動について記します。

	身体機能発達の特性	体験したい動き
0,1,2歳	体力・運動機能の土台を作る	興味・関心の赴くままに動く
3～4歳	体のバランスを取り移動する動きが身につく	立つ、起きる、回る、渡る、ぶら下がる、走る、跳ぶ、登る、這うなど
4～5歳	体全体でリズムを取り用具を巧みに操りコントロールできる	持つ、運ぶ、投げる、蹴る、捕る、押す、引く、（用具を操作する動き）
5～6歳	体のバランスを取る動き、移動する動き、用具を操作する動きがより滑らかにできる	道具を用いた複雑な動きが含まれる遊びや様々なルールでの鬼遊びなど

表を見ると、お遊戯（ダンス）に共通する動きが多いことに気づきます。ダンスは体のバランスを取りながら回る、手を広げる、後ろに下がるなどの動きをつけます。振り付けを始めたころには難しかった動きが、今は安定感を増し顔の表情に余裕が出ています。「もう少しニコっとしてみようよ」と伝えると、ダンスの曲想と連動するような笑顔に。「見えを切る」こともできるようになっています。「役になりきる」とは体の動きと脳の連動なのだと合点がいきました。「楽しい？」と尋ねると「上手でしょ！！」と満足そうな顔をみせてくれます。



2歳「ナイスシュート！」「すごいね」



もも・れもんさん年長さんにダンスを披露



年長さんは階段を使ってダンスの自主練??



ピンと伸びた手や足はなりきっている証



年少 上半身の大きな動きを両足で支える



年中 片足立ちでタイミングを合わせます



年長 まっすぐ転がすって難しいよ



体全体を大きく動かして唐衣を躍らせる舞